

学校だより No.3  
2023. 6.9

# 窓



福井市日之出小学校  
令和5年度 6月号

〒910-0859 日之出 5-11-1

Tel54-1551 Fax 54-1550

Email : [hinod-e@fukui-city.ed.jp](mailto:hinod-e@fukui-city.ed.jp)

URL : [www.fukui-city.ed.jp/hinode-e/](http://www.fukui-city.ed.jp/hinode-e/)



## 感心・感動・感謝! 3つの拍手を贈ります



「神話をつくれ!!日之出の四天王いざ出陣!」のスローガンのごとく、一人一人が授業で鍛えた力と学年や各色の団結力を発揮して、競技・係の仕事・応援に全力で打ち込んだ体育大会でした。

あらゆる場面でみせる児童の一生懸命な姿や意気込みに感心し、また学年や各色が一丸となって体育大会を成功させるぞという熱き思いに感動しました。さらに、競技をしている児童と応援する観客とが一体となっている姿にも感動しました。

こうした素晴らしい体育大会を創り上げることができたのは、児童の皆さん一人一人の自覚と努力、仲間の励ましや協力、そしてそれを見守り指導、支援、応援してくれた先生方、保護者・地域の皆様のおかげと感謝しております。

児童の皆さんも、体育大会を通して、心あたかな人々、たくましい先輩、かけがえのない仲間が、自分のすぐそばにいたことを実感したことでしょう。

この体育大会での「感心」「感動」「感謝」を、これからの学校生活の中で何度も味わいたいと思います。

こうしてすばらしい体育大会を創り上げてくれた皆さんに、この場をお借りして3つの拍手を贈ります。

1つ目の拍手は、神話をつくるがごとく!!力を出し切った全校児童の皆さんをたたえ、心を込めて贈ります。一生懸命に競技や応援に取り組み、感動を与えてくれてありがとう!

2つ目の拍手は、練習を見守り、指導して下さった先生方と体育大会の運営に全力を尽くしてくれた児童の係の皆さんに贈ります。万全を期した準備と進行・運営、大変ご苦労様でした。

3つ目の拍手は、心あたまる応援をして下さったお客様や保護者・地域の皆様に感謝の気持ちを込めて贈ります。特に、日之出地区体育大会との合同開催に入念な準備をして下さった「日之出体育協会」様には本当にお世話になりました。ご支援ご協力、ありがとうございました。



### 熱中症を予防しましょう!

- ・水分をこまめに摂取しましょう。
- ・睡眠不足にならないようにしましょう。
- ・朝食を必ず食べて、水分もしっかり摂取しましょう。  
(熱中症になってしまった方は、寝不足、朝食抜きが多いそうです。)



東京での事故を受け、前日（5/20）の準備の時に、体育協会の方々が、グラウンドの釘の点検をしてくださいました。お陰様で安全な大会運営ができました。ありがとうございました。



## 5.25 応援お礼に



体育大会が終わった後、火曜日（25日）に、6年生の各色の団長を中心に、応援の報告とお礼に各教室を回りました。

体育大会をきっかけに、子供たちの主体的な活動が学校生活の様々なところに広まっています。



## 子育て 親育ち



### 「雨の日、晴れの日」

～昨年度から、このテーマで時々紹介しています。  
参考にできれば幸いです。～

梅雨の季節を迎えアジサイのつぼみが膨らみ、色づき始めました。自然の植物がたくましく伸びゆく様子は、私たちに勇気と希望を与えてくれます。

草や木の生長にとってなくてはならないものが、雨の日であり、またよく晴れた日です。どちらもちょうど良いバランスで繰り返されるので、幹や枝は大きくなり、葉は勢いよく生い茂ります。

もし雨ばかり降っていれば、植物は根が腐って育ちません。逆に、晴れの日ばかりでも水分がなくなって枯れてしまいます。

このように、植物の生長には、反対のもの同士が必要です。子供の心の成長にも雨と晴れのように全く反対のものが 필요합니다。そしてそれらは優しさと厳しさです。

子供たちは優しさだけでは、甘えが出たり、わがままが出たりして良い心は育ちません。また逆に厳しさだけでも気持ちがすさんだりいじけたり、イライラしたりして良い心は育ちません。

子供たちは1日の中で何回か注意されたり褒められたりする機会があると思います。その時に厳しく注意したり、優しく褒めてあげたりすることが一番必要です。

厳しくしかったり指摘したりした後でも、なぜ注意されたのか気づくようになれば、褒めてあげることも大切です。

子供たちは時々過ちを起こすこともあるかもしれませんが、その時に厳しく注意されたり、優しく褒められたりすることによって的確な判断ができる人に成長していきます。

このようなことを繰り返して経験することにより、社会の一員として自覚をもった人間に成長していくのだと思います。

